



2026～27 年度
国際ロータリー会長
オラインカ・ハキーム・ババロラ

Weekly Report Niigata

持続可能な
インパクトを
生み出そう

Rotary



2026～27 年度
新潟ロータリークラブ会長

坂井 賢一

新潟 RC 10 月第 2 例会 (2026.10.13) No.3621

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 会長の時間 (坂井 賢一会長)

皆様、こんにちは。

本日は、お忙しい中赤塚裕介ガバナー補佐にお越しいただき誠にありがとうございます。例会終了後、クラブ協議会においてご指導いただく段取りとなっております。どうぞよろしくお願いいたします。

2023年2月、そして同年10月に、連日報道されているネパールを、業界の視察で訪れました。まさか、あのような大規模な土石流災害が起きるとは夢にも思いませんでした。

2026年8月26日、ネパールにおいて大規模な土石流災害が発生いたしました。多くの尊い命が失われ、甚大な被害をもたらしたこの自然災害に対し、心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々の一日も早い復興を祈るばかりでございます。

ネパールは、雄大なヒマラヤ山脈を抱く美しい国ですが、その厳しい自然環境ゆえに、常に生と死、そして災害と隣り合わせの生活を強いられています。本日は、その災害の現場から60キロから70キロほど離れた場所に位置するある古い都での出来事、そこに息づく「一人の日本人医師の物語」、そして「我々ロータリーの絆」についてお話しさせていただきます。

【世界遺産の街、バクタプールとロータリーのエンブレム】

被災地から数十キロ離れたカトマンズ盆地の一角に、「バクタプール」という街があります。中世の面影を色濃く残し、街全体が世界文化遺産に登録されているこの古い都は、「信仰者の街」と呼ばれるほど、人々の祈りと活気にあふれた美しい場所です。

このバクタプールの街を視察で訪れた際、私は一つのシンボルに出会い、思わず足を止めました。

伝統的なネパールのレンガ造り、「なぜ世界遺産の建物にロータリーのエンブレムがあるのですか」と、私はガイドに尋ねました。すると、ここは現地のロータリークラブ・オブ・バクタプールの拠点だと教えてくれました。さらに、この町には、同クラブが大きな支援を続けている地域医療の拠点、岩村記念病院があることもわかりました。

なぜこの町に「岩村」という日本人の名を冠した病院があるのでしょうか。そこには、一人の日本人医師の壮絶な人生と、ネパールの人々との間に結ばれた深い絆の物語があります。

【ネパールの赤ひげ・岩村昇医師の軌跡】

岩村昇（いわむらのぼる）博士。彼は1927年に愛媛県で生まれ、18歳の時に広島で原子爆弾の被害に遭いました。倒壊した建物の中から九死に一生を得て救出された彼は、その絶望的な被爆体験から「生かされた命を、他者のために使おう」と強く決意し、医師の道を歩み始めました。

1962年、日本がまだ戦後復興の途上にあった時代に、岩村医師は医療事情の極めて厳しいネパールへの赴任を志願します。当時のネパールは結核やコレラ、ハンセン病などの感染症が蔓延していました。彼は、近代的な設備の整った病院で患者を待つのではなく、自ら重い携帯型のレントゲン機材を背負い、道なき道を歩いて険しいヒマラヤの山村を巡回する道を選びました。

彼は単に病気を治すだけでなく、公衆衛生の指導や農業支援を行い、村人たちが自立して健康に暮らせる仕組みづくりに奔走しました。ネパールの言葉で「サンガイ・ジウナコ・ラギ（みんなで共に生きるために）」という理念を掲げ、20年もの長きにわたり、現地の草の根の医療に人生を捧げたのです。

彼の献身的な姿は、いつしか「ネパールの赤ひげ先生」として、現地の人々から絶大な信頼と尊敬を集めるようになりました。岩村医師が亡くなる数年前の1998年、バクタプールの地域住民たちは彼の偉大な功績を永遠に語り継ぐため、自らの手で基金を募り「岩村記念病院」を設立しました。一人の外国人の名前が、地元の公的な病院に冠されるというのは極めて異例であり、いかに彼が愛されていたかの証です。

【岩村医師の遺志を継ぐロータリーの絆】

そして、その岩村記念病院の運営を長年にわたり力強く支え続けているのが、他ならぬ「ロータリークラブ」なのです。

現地のバクタプール・ロータリークラブはもちろんのこと、日本の尼崎西ロータリークラブ、他多くのロータリークラブも合同で支援を行い、医療機器の寄贈や救急医療の拡充、貧しい人々への無償診療のサポートを行ってきました。あの歯車は、岩村医師が蒔いた「サンガイ・ジウナコ・ラギ（共に生きる）」という利他の種を、我々ロータリアンがしっかりと引き継ぎ、育てていることの何よりの証明なのです。

先月の痛ましい土石流災害をはじめ、ネパールは今も多くの困難を抱えています。しかし、バクタプールの岩村記念病院では、今日もロータリーの支援のもと、懸命な救命活動と地域医療が続けられています。

遠く離れたヒマラヤの空の下で、我々と同じエンブレムを掲げ、「超我の奉仕（Service Above Self）」を実践している仲間がいる。一人の日本人が人生を懸けて築いた命の砦を、ロータリーの絆が守り続けている。

私はその事実に触れ、ロータリアンであることの深い誇りで胸がいっぱいになりました。

本年度、ババロア国際ロータリー会長が掲げるテーマでもあります「持続可能なインパクトを生み出そう」。まさにこのことではないでしょうか。本日は、ネパールの厳しい自然の中で出会った生と死のドラマ、そして先人から我々へと受け継がれるロータリーの熱き絆についてご報告させていただきました。

以上で会長の時間とさせていただきます。
ご清聴、誠にありがとうございました。

(3) ゲストの紹介

新潟明訓高校インターアクトクラブ顧問 加藤隆広先生

新潟明訓高校インターアクターのみなさん

水澤 凜さん、小島 莉子さん

長谷川 寧音さん、樋口 由菜さん

丸山 あかねさん

(4) ビジターの紹介

赤塚 裕介ガバナー補佐（新潟万代RC）

(5) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(桜井 広利副委員長)

坂井 賢一君 桜井 広利君

本多 晃君 石橋 正利君

米山奨学会寄付発表(織戸 潔委員長)

赤塚 裕介君 徳永 昭輝君

島田 好久君 本多 晃君

杉村 章君 岸本 幹生君

江波 恒夫君 織戸 潔君

青少年育成基金寄付発表(大桃 典和副委員長)

小林 悟君 本間 彊君

本多 晃君

(6) ニコニコボックス紹介(杉村 章委員)

・赤塚裕介ガバナー補佐 本日は、ガバナー公式訪問前のクラブ協議会に伺いました。みなさま。どうぞよろしく願いいたします。

・高橋 秀樹君 ガバナー補佐の赤塚さんを歓迎してニコニコします。

・小飯田澄雄君 赤塚ガバナー補佐を迎えニコニコします。

・河西弘太郎君 明訓高校の皆さんを迎えニコニコします。

・高橋 智則君 先週の例会のOB紹介にて高橋秀樹さんに親父のことを、だいぶ盛り気味にご紹介していただきました。帰って親父に報告したところ「おお、そうか」とそっけない返事でしたが、照れくさそうな、嬉しそうな、なかなか見る事の出来ない良い表情をしておりました。本当にありがとうございました。

・大桃 典和君 先週、誕生日のお祝いをいただき有難うございました。また1つ年をとったのか~というのが率直な気持ちです。元気で、また一年過ごせますように。

・高橋 智尚君 お誕生日のワイン、ありがとうございます。

・杉村 章君 結婚記念日のお花を頂き、ありがとうございました。夫婦でニコニコします。

・本多 晃君 父の葬儀を滞りなく行うことができました。ご弔問、ご会葬いただいた皆様方、誠にありがとうございました。

(7) 幹事報告（本多 晃幹事）

例会終了後、赤塚ガバナー補佐を囲むクラブアッセンブリーを開始致します。
理事、各委員長はフェレンツエへ移動願います。

(8) 新潟明訓高校インターアクトクラブ活動報告



活動報告の後

新潟明訓高校インターアクトクラブが取り組んでいるサンタプロジェクト（恵まれない子供たちに本を贈る取り組み）に出席会員より 62,000 円のご協力をいただきました。

(9) 10月13日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
80	79	51	64.56%

Zoom 参加 1 名

10月20日は月見例会

会場 イタリア軒

午後5時30分受付 6時開会

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>